



盲導犬について正しい知識を学ぼう！
松ヶ崎小学校で盲導犬キャラバン



6月20日、松ヶ崎小学校で、出張授業「盲導犬キャラバン」が行われました。これは、盲導犬とのふれあいの機会を持ち、視覚障害や盲導犬について知ってもらうため、日本盲導犬協会が全国の小中学校を対象に企画したものです。当日は同協会の西島雄一さんと盲導犬「ルート」を講師として迎え、盲導犬の仕事や盲導犬にやってはいけないこと等、クイズを交えながら正しい知識を学びました。授業の最後、西島さんは「皆さんが真剣に話を聞いてくれてとても嬉しかったです。困っている人がいた時は、優しい心で助けてあげてくださいね」と話しました。授業のほか、盲導犬ルートとふれあう時間もあり、児童たちにとって貴重な体験となりました。

授業を受けた児童たちの声

■ 脇 ゆいさん（1年）

私がルートに会ってびっくりした時、西島さんが「怖くないよ」と言ってくれて嬉しかったです。ルートがお仕事をしているところが、かっこよかったです。

■ 清水 慶次さん（3年）

西島さんが「ストレートゴー」と言えば前に進み、「レフトゴー」と言えば左に進むのを見て、盲導犬は賢いとは聞いたけど、こんなに賢いなんて、と思いました。

■ 田村 雄心さん（3年）

目の不自由な人をサポートする盲導犬はすごいなあと思いました。

■ 森木田 凜さん（4年）

最初は怖かったけど、さわるとふわふわしていて気持ちよかったです。盲導犬の仕事を知ることができてよかったです。

■ 清水 謙信さん（5年）

最初はルートが思ったよりも大きくて驚いたけれどだんだん慣れていきました。来年もルートをつれてきてほしいです。

■ 神崎 輝さん（6年）

盲導犬がちゃんと誘導するところがすごいなと思いました。盲導犬はおとなしくてかわいかったです。



- 1 皆と一緒に記念写真
- 2 盲導犬クイズの正解を考え中
- 3 西島さんと盲導犬ルートのお話
- 4 ルートに気づかれないように…
- 5 ふわふわの毛並みに皆が夢中



受け継がれていく柗原地区郷土伝統行事
「おろごめ」



6月19日、柗原地区の郷土伝統行事である「おろごめ」が同地区公民館下の海岸で行われました。これは、藩政時代に武士が野生の子馬を「おろ」と呼ばれる囲いの中に追い込む行事が子供たちに受け継がれたもので、400年以上続く伝統行事です。コロナ禍の影響を考慮して、規模を縮小したうえで、柗原小学校の児童34名が参加し開催されました。当日は、早朝から裏山に登り安全祈願をした後、海岸へ移動し、砂浜を掘って作られた砂の囲い「おろ」の中で、小学6年生の親頭役が、子頭役のほかの子供たちを「おろ」から引きずり出す激しい戦いを繰り広げました。子供たちが奮闘する姿に、地域の方々も笑顔で応援しました。親頭役だった木原颯甫さん（6年）は「前は怪我をしていて参加できなかったのですが、久しぶりにおろごめができて楽しかったです。「おろ」から人を引っ張り出すのは大変でしたが、とてもいい思い出になりました」と話しました。参加したほかの子供たちも「とても楽しかったです。来年も必ず参加したいです」「伝統行事をこれからも大切にしたいです」と話しました。おろごめはこれからも、次の世代へ大切に受け継がれていくことでしょう。



- 1 神社に向かって安全祈願
- 2 深さ約1.5m「おろ」の全体図
- 3 松明や幟を持って登山
- 4 皆で記念に集合写真
- 5・6・7 子どもたちの熱い戦い